

創造

JA いけだ
CREATION

今月号の表紙写真は、11月12日(木)～14日(土)の3日間で開催された農業祭の餅まきの様子です。詳細は2～3ページをご覧ください。



CONTENTS

- * 2015池田農業祭
- * 農協法公布記念日にあたって
- * 第28回 JA北海道大会
- * 農村ファームステイ
- * 「鎮魂の碑」完成、合同歎魂祭開催される
- * しょくいくつうしん
- * 21NEWS アラカルト
- * シリーズ 協同組合と報徳
- * 平成27年末・平成28年始業務
- * 金融共済課より
- * JAネットワーク十勝の動き
- * 畜産部通信
- * 未来人
- * 農家のお嫁さん
- * 今月の1枚
- * 理事会の動き
- * 編集後記

2015.

12
DECEMBER

No.072



2015池田農業祭

今年も、豊穰の秋に感謝し、収穫の喜びを地域の皆様と共に分かち合おうと11月12日（木）から14日（土）の3日間で『2015池田農業祭』が農協本所西側駐車場特設ジャンボテントにて開催され、多くのお客様で賑わいました。

初日には、農協本所2階大会議室にて農協法公布記念式が開催され、理事・監事の皆さんや・女性部・青年部の役員の方々と職員が列席し、物故組合員への黙祷・鈴木組合長の講和・農産課桜井職員の決意表明などが行われ、武田代表監事の万歳三唱で締めくくられました。同会場では引き続き「農業祭修祓式」が行われ今年の収穫に感謝するとともに、農業祭の無事などを祈願いたしました。

Aコープ利別店前のテントでは、地場産野菜の即売会、馬鈴薯・ネバリスター・ゆり根・玉ねぎ・豆

類等が格安で提供され、恒例になりました玉ねぎのネット詰め放題には多くのお客様が並ばれていました。また、大津漁港の漁師友の会の新巻シャケ販売も好評でした。

特設大テントでは女性部のお手伝いを頂き、うどん・そばの販売と甘酒の無料サービスを行いました。



農産課 桜井職員の決意表明



農協法公布記念式での鈴木組合長の挨拶



フードストリート



青年部の『ど味噌汁』

他にも青年部による池田町産の野菜と女性部加工サークルむぎ畑の、ど味噌を使った「ど味噌汁」・ポップコーンの販売。和牛生産組合あか牛部会の皆さんによる「いけだ牛（一頭分）」の格安販売。町内外商社の出店とJAすながわより生産者とJA職員による新米ななつぼしの販売が行われました。

初日の午後3時半からは恒例の池田町産もち米10俵を使用した餅まき大会も、町内外より大勢のお客様に来て頂き大盛況でした。今年も東京の(株)虎屋様の協賛により「小形羊羹」の引換券が提供されました。

また今年も、兵庫県姫路市より3日間の実演販売をしてくださいました(株)御座候様のおやき（回転焼き）には長蛇の列が出来、最大1時間半待ちの場面もありました。

(株)御座候様とは平成6年から安定供給による適正価格の実現と需要の維持拡大を目的として、エリモ小豆と絹手亡の契約栽培を行っており、販売していただいたおやきの餡も組合員皆様が生産したエリモ小豆と絹手亡を使用しております。(株)虎屋様とも、福白金時の契約栽培をしております。(株)御座候様と(株)虎屋様には出店・協賛していただきましたことに、心よりお礼申し上げます。

今年初めて「フードストリート」と題しまして「トカチケバブ・輪葉家・ケーキのお店K I - N A・十勝クレープエンジェルウィング・餃子の宝永」の販売店に来ていただき、完売するお店が出るなど大盛況でした。

最終日には、本所南側駐車場にて午後2時から帯広郷土芸能平原太鼓様（当JA新入職員の青木さんが所属）による「平原太鼓演奏」が行われ、平原太鼓の迫力ある演奏に大勢のお客様が感動していました。

大盛況のうちに、3日間の農業祭も無事終了いたしました。農業祭開催にあたり、餅つきに協力していただきました各地区の方々、農産物販売、うどん・そばの応援をしていただきました青年部・女性部の皆様、並びに農業祭に協力して頂いた組合員の皆様、(株)御座候様・(株)虎屋様、帯広郷土芸能平原太鼓様に文面を御借りし感謝、お礼を申し上げます。
(記事・営農部営農課 杉山淳史)



玉ねぎ詰め放題



おやきに行列



(株)御座候のおやき



農協法公布記念日にあたって〜平成27年11月19日〜

北海道農業協同組合中央会 会長 飛田 稔 章

昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が制定され、今年で68年目を迎えました。

戦後の食料不足等の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、農業生産力の増進と農業者の経済的・社会的地位の向上をはかり、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され農協が設立しました。

農協は「農民による農民のための組織」として、協同組合原則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の経営と生活の安定並びにより良い地域社会の実現をめざし、各種事業を展開しながら今日に至っています。

言いつまでもなく、農協法は農協の組織・事業を運営する基本法として極めて重要な役割を担っておりですが、農協法公布記念日を契機に、改めて農協の原点に立ち返り、その意義と役割について共通認識を深めることが重要であります。

このような中、過般、農協改革法案の成立、T P P交渉の大筋合意という我が国の農業・J Aに係る極めて大き

な情勢変化があつたところですが。

農協改革については、法改正と農業所得の向上の関係などに関して、いまだに納得のいく説明なり理解が進まない一方で、准組合員制度のあり方や監査の仕組みなどの重要案件について今後の検討課題となっており、改めて地域農業の振興や農協運営への影響がないよう、政府に対する働きかけを含め、関連する取組みを進めていく必要があります。

一方、T P P交渉については、交渉参加12か国の閣僚会合を経て、去る10月5日による大筋合意がなされた経過にあります。

交渉に関する情報開示が極めて不十分であり、国民的議論もなままに大筋合意という結果に至ったことに対して強い憤りを覚えるとともに、生産現場においては、今回の合意内容と国会決議との整合性をはじめ、これまでの交渉の取り進め方には到底納得がいかない状況にあります。

農業のみならず他の分野の合意内容についても全容が不明瞭であり、交渉を担ってきた政府・与党においては、国民との約束ともいえる国会決議と今

回の合意内容との整合性や各分野の合意内容の全貌について説明責任を果たす必要があります。

我々J Aグループ北海道としては、これらの状況を見極めつつ、今後の取組みを再構築した中で、農業経営をはじめ地域農業・地域社会の持続的発展に支障がないよう、関係方面への働きかけなど最大限の努力を傾注してまいり所存です。

T P P交渉だけに限ったことではありませんが、国民との信頼関係がなければ国を形づくることは不可能であります。

とりわけ地方創生が叫ばれている中であつては、各地域の声に十分に耳を傾け、真に国民に寄り添った対応が国には求められているのではないでしょう。

かかる状況のもと、先般、3年に一度のJ A北海道大会が開催され、「北海道50万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」に関する決議がなされたところであります。

農業は、関係者それぞれの自助努力とともに、一般消費者・地域住民の理解と協力のもとに成り立つ産業であり、

今回の決議事項にはその思いが込められております。

組合員・J A・連合会・中央会が各々の役割を再認識するとともに、J Aグループ北海道がより一体となり総合力を十分発揮した中で、大会決議事項を着実に実践していくことが大会開催の真の目的であります。

前述のとおり、農業・J Aを取り巻く環境は激動しており、生産現場では将来に対する不安が渦巻いております。

しかしながら、我々農業者・J Aグループは、農業という生命産業に携わっているという責任感と自負心のもと、この情勢変化の中から今後に向けた取組みを見出し、いよいよと、農業・J Aに対する幅広い理解と共感を得る不断の努力を行いながら、長年にわたり先人が築き上げた本道農業並びに農業協同組合の基盤をさらに発展させ、後世にしっかりと継承するよう共に頑張ろうではありませんか。

今後とも、本道農業並びにJ Aがますます発展することを心より祈念し、農協法公布記念日にあたってのご挨拶といたします。

第28回 JA北海道大会 ～全道より約2,300人が結集～

「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現に向けて決議」

～TPPから北海道農業を守るための特別決議も採択～

平成27年11月11日（水）JAグループ北海道による、第28回JA北海道大会が札幌で開催されました。この大会は、JA北海道中央会会長を大会長に各連合会役員、各地区組合長会長・青年部女性部の全道組織会長が大会運営委員となり、3年に1度、全道のJA関係者が結集し、今後3年間の全道JA組織の基本的な運営方針などを、大会決議を通じて確認することを目的に開催されています。

第28回大会には、全道の108JAからバスを貸切るなどして、約2,300人が参加致しました。当JAからは、組合長、青年部役員、女性部役員などの役職員12名が参加いたしました。

来賓祝辞では、高橋はるみ道知事と北海道経済連会大内全会長、北海道消費者協会の橋本智子会長が挨拶を行い、高橋知事は、TPPについて「北海道は重要5品目全てを抱え、農業関係者や道民の多くが不安や懸念を抱いている」、「農業が確実に再生産を図ることができ、担い手が希望を持って取り組むことができるよう、政府与党に強く要望した」と説明がありました。道として、JAと連携を深め、生産性や収益性の高い「チャレンジング農業」を推進し、今後とも、食料供給基地として役割を担っていけるよう全力で取り組んでいく考えだ」と述べました。



飛田会長の挨拶では、「農業は生命産業」、携わる者それぞれの自己努力と、消費者・地域住民の理解と協力の基に成り立つ産業であり、農業やJAへの理解と共感を広げ、後世に道農業を引き継ぐためにJAグループ一丸となるように呼びかけました。又、力強い農業とは、道の基幹産業である農業が所得を確保することで持続可能な産業となること。豊かな魅力ある農村とは、農村に暮らす人々が消費者などつながりをもって心の豊かさと誇りを実感できる魅力ある農村となること、と述べられました。

- ☆1号議案では、「力強い農業」の実現に向けて農業所得を20%増やし、新規担い手を年間約1,200人に倍増させることを基本目標としています。
- ☆2号議案は、「豊かな魅力ある農村」のために、食べるサポーター、利用するサポーター、参加するサポーター、行動するサポーターなど、食と農で道民550万人をJAグループのサポーターにすることを基本目標としています。
- ☆3号議案は、組合員・役職員の「人づくり」を柱に、各組織の取り組みを明らかにしています。

以上の議案が上程され、決議されました。

また、TPPから北海道農業・農村及び国民の命と暮らしを守る特別議決が採択されました。

（記事・管理部長 花本 敦）



農村ファームステイ

～大阪の高校生が十勝の農業を体験～

10月20日（火）から21日（水）にかけて、ファームステイが行われました。ファームステイとはNPO法人食の絆を育む会（代表：近江正隆氏）が進める取り組みで、道外の高校生・修学旅行生を対象に農家が受け入れを行い、農作業や寝食をともにすることで、今まで自分ごとではなかった一次産業を身近に感じてもらう事を目的としています。

今回は大阪府立八尾翠翔高校の修学旅行生240名を十勝管内で受け入れ、そのうち池田町では21名、当JA管内では、小原秀樹さん宅に4名、糊澤達也さん宅に3名の受け入れを行って頂きました。

10月20日（火）から21日（水）にかけて、小原秀樹さん・糊澤達也さん宅でファームステイの様子を取材させて頂きましたのでご報告いたします。

（記事・営農部営農課 杉山淳史）

小原秀樹さん宅でのファームステイ



ハウスのビニールを張り替えている様子

ファームステイ初日には、かぼちゃの収穫を行いました。収穫したのは「ペポかぼちゃ」という大きなかぼちゃで、高校生は「めっちゃ重かった」、「こんな大きな、かぼちゃ初めて見た」と驚いていました。

2日目の朝、高校生の方から「牛の餌やりをしたいです！」と小原さんに言い、早朝から牛への餌やりを行いました。子牛を見た高校生は「可愛い！」と目を輝かせていました。

その後、ハウスのビニールの張り替えを行いました。

初めはどうかやればよいのか戸惑っていましたが、小原さんに教えて貰いながら、真剣な表情で取り組んでいました。最後の方は慣れてきたのか作業もスムーズに進み、高校生達は「うまくできるようになった。楽しかったね。」と笑顔で話していました。

最後に牧場へ行き牛へ餌をあげました。遠くにいた牛の群れが勢いよく餌場へ走って来るのを見て、高校生達は「めっちゃ迫力あるな！すごい！」と興奮した様子でした。高校生達は餌が全ての牛へ行き渡るよう、しっかりと牛を観察して餌をあげていました。

高校生にインタビュー

スーパーとかでお肉が安く売っているけど、お肉ができるまで結構重労働があるということを知りました。おばあちゃんも作業していて、お年寄りがやるにはとても大変な仕事だと感じました。



牛に餌をあげている様子

小原秀樹さんの奥さん 祐子さんにインタビュー

高校生達は何にでも興味津々で、やってみたい・見てみたい・試してみたいと積極的な様子でした。また北海道の食べ物は美味しい様で、何を食べても感動していました。

今回のファームステイを通して、北海道の良い所や、農業をやっている中で生産者としてどれだけ手をかけて育てているのか、食べ物の大切さをわかってくれたらと思います。

榊澤達也さん宅でのファームステイ

長いものフックを外している様子



ファームステイ初日には、ハウスで「なす・きゅうり・にんじん・ブロッコリー・青梗菜・小松菜」の収穫を行いました。収穫したもので夕食はカレーとサラダを作り、高校生達は「めっちゃ美味しかった！」と喜んでいました。

2日目は、長いものツルを引っかけているフックをはずす作業を1町5反分に行い、高校生達3人は一生懸命取り組んでいました。作業終了後、高校生は「大変でした。朝はすごくさむかったのに今は暑い！しんどい！でも楽しいです！」と笑顔で話してくれました。

最後に長いもの収穫を行いました。ショベルで1mくらい穴を掘り、その中に入り長いものを折らないよう手作業で慎重に収穫をしていました。高校生は「あっ取れた！長い！すごい！」と目を輝かせていました。収穫が終わり、「楽しかったね！」とみんなで盛り上がっていました。

長いものを収穫している様子



高校生にインタビュー

野菜の種類や名前、畑に野菜がどのように出来ているのか、また収穫の仕方など学んだ事や新しい発見がたくさんありました。ファームステイ先の家族の方と寝食をとるとともにするのがとても楽しく、充実した2日間でした。

榊澤達也さんの奥さん 清美さんにインタビュー

高校生達は何にでも感動してくれて、すごく盛り上がり楽しんでいる様子でした。

今回のファームステイを通して、今までは何も考えずに買っていた野菜も、生産者の様子を見た事によって今までとは違う感情を持ってもらえると思います。

また大阪の高校生に十勝・池田町・畑作を知って貰えただけでも、今回受け入れをした意味があったかと思っています。

受け入れをしてみませんか？

これからも多くの道外の修学旅行生に、池田町でのファームステイを体験してもらう事で、「生産者の苦労」と「食べ物の有り難さ」に関心を深めてもらい、ファームステイで生まれた「生産者との繋がり」により、池田町を応援してくれるようになると思います。

将来、池田町産の農畜産物を食べる機会に、「美味しさとともに記憶の中に浮かび上がる池田町の風景・人」により必ず「池田町のファン」になってくれるものと思います。

皆さんも「池田町のファン作り」に参加しませんか？

生産者の思いを刻む「鎮魂の碑」完成、 合同獣魂祭開催される

10月16日秋晴れの下、池田町食肉センター前庭において「池田町獣魂祭」が開催され、当日は町内の畜産生産者やJA、町、食肉センター指定管理者の十勝ハンナン(株)社員の方など約120名が参列し、一人ひとり碑に向かい焼香して家畜の霊を慰めました。

昭和49年に十勝家畜商協池田支部が中心となり、町と当時の施設管理者(株)明糖畜産の後援で「獣魂供養の碑」を建立されて以来、42回目となる今年は、これまで池田町の農業基盤拡充に貢献してきた家畜の冥福を祈るための立派な碑を建ててくださった諸先輩方に敬意を払いつつ、より広い範囲の関係者が集って命の尊さを次代に伝えていくことを願い、町内の主だった畜産関係組織の代表者が発起人となって、既存の碑の並びに新たな『鎮魂の碑』の建立を計画したもので、池田・高島両JAの畜産生産者の方々の募金などによる碑の完成を待って、この度の「合同獣魂祭」開催の運びとなりました。

最近の我が国の畜産業は、宮崎県における口蹄疫の発生や原発事故による風評被害などの様々な苦難を経験し、また現在TPP交渉の動向といった難問を抱えつつも、取引価格はかつてないほど順調に推移しており、この「獣魂祭」という催しは、今日の発展に至るまでに尽力された多くの方々への感謝と哀悼、そして動物たちへの慈しみを表すという大きな意味をもつ行事と考えております。

式典の後には近くの東屋に場所を移し、バーベキューを囲みながら池田町畜産に携わる者同志の交流を深め、今後の更なる発展を誓い合いました。

今回の碑建立のため募金いただきました畜産生産者の皆様、まことにありがとうございました。

次年度以降もより多くの関係者の方にご出席いただけますよう、開催時期の見直し等も検討してまいりますのでご協力宜しくお願いいたします。

(記事・畜産部長 古川勇一)



「獣魂供養の碑」「鎮魂の碑」



式典の様子



東屋でバーベキュー



10月24日(土) 傘 第4回作業

第4回 食育事業

10月24日（土）、青年部食育事業の今年度最後の作業が行われました。

今回はサツマイモとポップコーンの収穫を行いました。子供たちは積極的に作業するなかで、特にサツマイモの収穫を楽しそうに行っていました。サツマイモを掘るために一生懸命に穴を掘り、大きい芋が出てくると「うわー！大きい！」などと、とても喜んでいました。

収穫後は部員が焼き台を使って、サツマイモや事前に乾燥させておいたポップコーンを調理し、参加されたご家族に食べてもらいました。「めっちゃおいしい！」などと、何度もおかわりに来ていて、自分で栽培した作物は何倍もおいしく感じられたと思います。

今年度の食育事業でも、普段農業に関わらないご家族に、植え付けから収穫までの作業を体験してもらい、普段口にしている作物がどのように作られているのか、分かって頂けたと思います。海外からの安い作物が目に行く中で、このような活動を積極的に行うことで、地元産の美味しい作物の良さも伝わっていくと思います。

我々青年部員も、今年度の活動経験を次年度に活かせるように精進していきたいと思えます。

(記事・青年部 守内 駿)



5S活動推進委員会

窓ガラス清掃を実施！

5S活動のひとつである「窓ガラス清掃」を、10月10日（土）に本所・池田支所事務所で、17日（土）に生産資材課・Aコープ利別店において実施しました。

この活動は昨年より行っており、今まで清掃業者に依頼していたものを職員が協力して行うこと

で、職場の環境美化と、ひいてはお客様を気持ちよくお迎えできる事にも繋がると考えたことから始まったものです。

両日とも天候にも恵まれ汗ばむ陽気の中、事業所毎に5S委員が中心となり職員で分担し、ガラス拭きや棧に溜まった汚れ落とし等の作業を手際良く行いました。常日頃気になっていた窓の汚れも見違えるように綺麗になり、明るい日差しの中で業務を行なえる環境となりました。

11月17日に実施した「秋の定期清掃」で今シーズンの清掃活動は終了となりますが、今後も職員一人一人が環境美化に努めるよう心がけ、活動を継続していきたいと考えています。

（記事・管理部管理課 遠近恵子）



女性部

JA北海道女性リーダー研修会・ 北海道家の光大会が開催される ～全道から女性部員・約550名が参加～

11月5日（木）～6日（金）にかけて、当女性部からは三役3名が参加し、札幌市のシャトレゼ・ガトーキングダムサッポロでJA北海道女性リーダー研修会・北海道家の光大会が開催されました。

初日は「JA女性部組織活動に期待するもの」と題して、福島大学行政政策学類・岩崎由美子教授の講演がありました。岩崎教授からは、東日本大震災直後と現在の福島の状況、原発事故による農家への被害や都市部に住む一般消費者向けの農業体験の取組など、女性農業者が震災後も活動を続けている事や、女性組織には「消費者と生産者」を繋ぐ役割を期待したいと話されました。

講演後には家の光記事活用発表が行われ、事前に書類審査を通過した3名が発表し、最優秀賞には今までの活動だけでなく、未来への希望も合わせて発表された、JAサロマ女性部の鈴木浩子さんが選ばれました。

2日目には、「みんなで支える在宅介護」と題して、JA北海道厚生連高齢者福祉部・福嶋美奈子部長より、介護の現状と介護をする方の「心」の持ち方（考え方）を中心に講演され、女性部員は自分たちの身近にある介護について、とても真剣に聴いていました。

講演後は各女性部員が工夫を凝らした手芸品や加工品を観賞し、研修会は終了となりました。

参加されました、三役の皆さん大変お疲れ様でした。

（記事・営農部営農課 遠藤由梨）



研修会の様子

シリーズ 協同組合と報徳

No.15

協同精神の基礎にある

価値観は報徳精神

協同組合が発展するためには価値観の共有が必要としたのは「協同組合アイデンティティに関するICAA声明（一九九五年）」ですが、協同組合原則の中に「倫理的価値を信条とする」ことを求めました。しかし、その後の協同組合運動の中では、かならずしもその意味を正確にとらえているとは言えないのが現状です。

それでは、相互扶助とはどのようなものなのでしょうか。小説家で歴史家の司馬遼太郎氏は、若い世代に対して「二一世紀に生きる君たちへ」という遺言ともいふべき一文を遺していま

す。「人間は社会をつくって生きていく。社会とは、支え合う仕組みとということである。……自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつくられていない。このため、助け合う、ということが人間にとって、大きな道徳になっている。助け合うという気持や行動のものは、いたわりという感情である。……これらの言葉は、もともと一つの根から出ている。根といつても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならない。」と述べています。

本能ではない助け合いの精神は、本来人間として生きていく中で身につけていく性格のもですが、競争主義が根強い現代社会においては、自然発生的に身につけることが難しくなっています。

そのため、その習得を支えるための協同組合教育が必要で、教育で始まり教育で終わるという先人たちの教えは、現在では最も大切なものとなっています。人によって組織され、方針を決め、活動する協同組合は、担い手である人々の「心田開発」が土台となっているのです。

（北海道報徳社
報徳生活読本より）

平成27年末・平成28年始業務

業 務	業 務 納 め	業 務 始 め
一 般 業 務	12月29日(火) 17時05分迄	1月6日(水) 17時05分迄
金 融 業 務 貯金・為替 A T M 組 勘	窓口業務 12月30日(水) 16時迄	窓口業務 1月4日(月) 16時迄
	A T M 12月30日(水) 18時迄	A T M 1月4日(月) 18時迄
	窓口本・支所 12月25日(金) 12時迄	窓口本・支所 1月6日(水) 16時迄
店 舗 業 務	12月31日(木) 15時迄	1月4日(月)～7日(木) 17時迄
給 油 所 業 務	12月31日(木) 18時迄	1月3日(日)～5日(火) 8時～17時迄 1月6日(水) から通常営業

金融共済課より

▶ 組合員勘定取引ご利用の皆さまへ

12月は組合員勘定取引の精算時期となります。

お問い合わせ・ご相談はお早めに、営農部・金融部へお越しくださいますようお願い申し上げます。

▶ キャッシュカード等の紛失について

キャッシュカード等の紛失・盗難されたときには当JAまでお早めにご連絡ください。

〈平日の営業時間中 9:00～17:00〉

本 所 ☎ 015-572-3131

池田支所 ☎ 015-572-3132

〈上記時間外はこちらへ〉 ☎ 0120-944-904

(受付時間 平日 17:00～翌8:00、土・日・祝日 8:00～翌8:00)

JAカード（一体型）をなくされた場合は、すぐに下記までご連絡ください。また、最寄の警察署または交番にお届けください。

〈受付時間 24時間受付〉 ☎ 0120-159-674

▶ 金融機関強盗防犯模擬訓練を実施

本所金融共済課では、利用者の安全と職員の防犯意識向上のため、平成27年11月18日(水)に池田警察署生活安全課の協力の下、金融機関強盗防犯訓練を実施しました。

今回の訓練は、閉店時間午後4時に模擬強盗犯が1名侵入し拳銃で威嚇し模擬紙幣を奪って自動車で逃走する想定で行われました。訓練終了後、警察署担当課長より強盗犯罪を未然に防ぐ対策や発生した場合の対処方法をご指導いただき防犯意識を高めることができました。今後も防犯対策に取り組み、利用者様に安心してご来店いただけるよう、安全な金融機関を目指してまいります。



防犯訓練の様子



警察に犯人像を説明している様子

金融共済課より

JAバンク JA女性部 (フレッシュミス・こだま会) 会員限定

女性部貯金

農業と家庭で活躍する女性を支えます。

ますます貯めやすくなる3つのお得な貯金。

① 女性部の活動を応援！

皆様へお支払いした貯金利息相当額を活動費として助成。
(毎年2月支払女性部貯金全口座貯金利息の相当額を女性部へ助成。)

② 生活を豊かに！

スーパー定期貯金(300万円未満)1年もの2倍金利。

③ 毎年「JA女性部手帳」をプレゼント！

※金利情勢により商品を見直すこともあります。ご了承ください。

詳しくは、店頭でご確認ください。(貯金規定、商品概要説明書をご参照下さい。)

 **JA十勝池田町**
金融部

JAネットワーク十勝の動き

組合員の皆様に、ネットワーク事業の推進状況をご報告申し上げます。

1 生産・販売の強化について

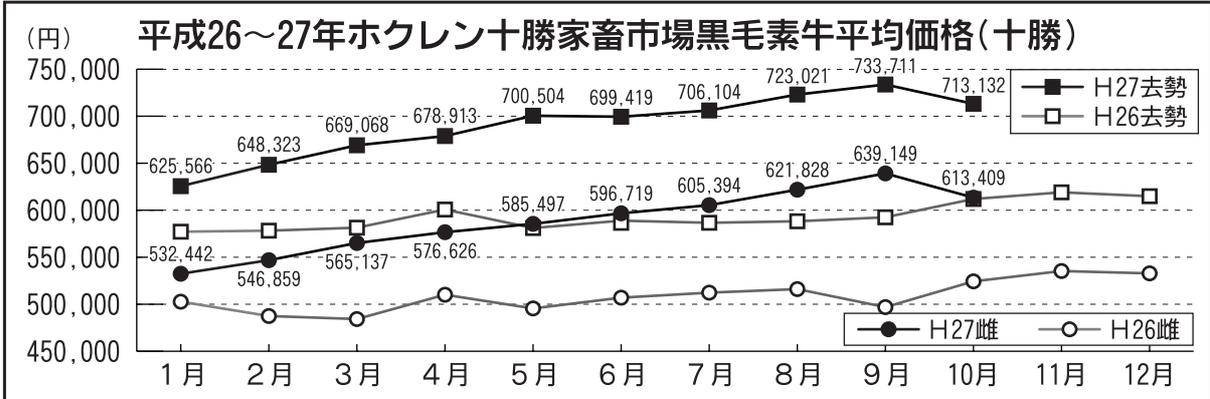
- 平成24年度策定しました「十勝農業ビジョン2016～選ばれる産地を目指して～」に基づき、十勝農業のブランド化・高付加価値化・ファンづくりの推進と安全安心で高品質な農畜産物の安定供給に努め、経営管理の高度化と生産性の向上により農業所得の向上を図るとともに、豊かで潤いのある地域社会の発展を目指すことを基本姿勢とし、2016年の農業生産額の目標を2,900億円として取り組んでいるほか、これまでの進捗状況の中間取りまとめと次期ビジョンで取り組むべき課題を検討しています。
- ブランド事業は、平成26年度にJAネットワーク十勝本部内にブランド戦略推進協議会を設立して「十勝ごちそう共和国」の建国宣言しました。今年度から十勝JA産農畜産物「Made in 十勝」商品を一般消費者にPRするため、「とかちマルシェ」、「首都圏大型スーパー51店舗」、「ホクレン大収穫祭 in 銀座三越2015」、「太陽のマルシェ」と連携し取り組みました。また、グルメBOOKやプロモーションビデオを製作し、地域の催事や研修会等にも活用できるよう配付しました。
- 「十勝型GAP」事業は、昨年度に引き続き組合長会と連携し、十勝全体で安全安心を支えるための改善運動として絶えず充実強化に努めます。また、十勝型GAP認証審査制度を検討するため生産者向け5JA、JA施設向け4JAでデモ審査を実施し、JA担当者を対象としたGAP研修会を開催いたします。

2 JA経営の強化について

- 平成26年度のJA財務状況については、すべてのJAが主要なネットワーク基準を満たしています。
- 平成22年度に策定しました「管内JA全体の経営戦略」に基づき、優秀な職員の確保・育成のために、ホームページによる管内JA職員採用情報の提供と道内大学に対する就職説明会の実施、担当職員の登録と研修の充実、農業経営診断士・営農指導員・農業融資プランナーなどの資格取得の推進に取り組んでいます。また、営農指導・融資相談機能の強化のために、営農指導スキルアップ研修を実施しました。

畜産部通信

畜産部
畜産課



10月黒毛素牛出荷区分別成績

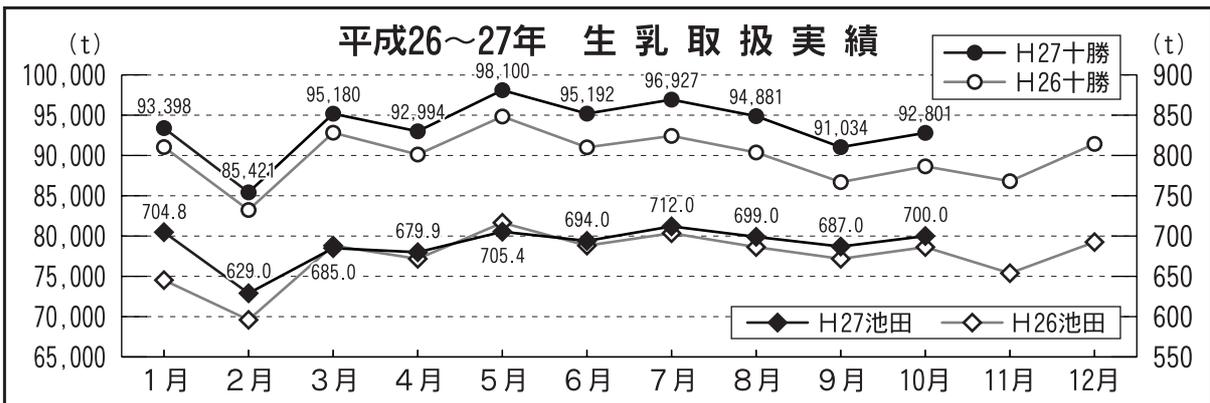
【金額(円)】

去勢	区分	取引頭数	平均価格(税込)	
			参加率・認定率	
十勝	和牛素牛	645	713,132	
	マニュアル参加牛	430	719,363	66.7
	マニュアル認定牛	76	773,635	17.7
池田	和牛素牛	56	730,851	
	マニュアル参加牛	45	725,688	80.4
	マニュアル認定牛	13	762,148	28.9
雌	十勝			
	和牛素牛	478	613,409	
	マニュアル参加牛	309	609,952	64.6
池田	和牛素牛	29	615,489	
	マニュアル参加牛	25	604,541	86.2
	マニュアル認定牛	5	660,528	20.0

10月ホクレン十勝枝肉市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
3日	黒毛去勢	A-5	2,324
		A-4	2,244
		A-3	2,133
10日	黒毛メス	A-5	2,298
		A-4	2,252
		A-3	2,149
24日	F1去勢	B-3	1,584
		B-2	1,476
	F1メス	B-3	1,560
		B-2	1,400



10月ホクレン十勝乳牛市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
1日	乳牛育成	417	348,358
7日	乳牛初妊	451	625,581
	乳牛経産	108	379,010
21日	乳牛初妊	380	634,440
	乳牛経産	50	409,752

10月十勝中央家畜市場

【金額(円)】

区分	平均価格(税込)
乳牛オス初生	85,949
F1オス初生	219,787
F1メス初生	153,527
廃用牛	192,414



豊田地区

あさ かわ とも き
朝 川 知 輝 さん

(37歳)

Vol.18

未来人

Mirai Bito

プロフィール

家族は知輝さん、妻・美幸さん、長女・結菜ちゃん、父・悟さん、母・さよさん、祖父・長藏さんの6人家族で畑作・肉牛を営む。

当時の専修大学北海道短期大学を卒業後、札幌で就職し8年ほど働いたあと就農。今年で9年目。平成24年度には、当JA青年部副部長を務める。

小さいころ農業にはあまり興味がなかったと話してくれたのは、平成24年度に青年部副部長を務めた朝川知輝さん。

池田高校を卒業後、美幌市にある当時の専修大学北海道短期大学造園林学科へ進学し、卒業と同時に札幌の会社に就職し8年間勤める。そんな中、自分には農業をやっていく恵まれた環境があり、「農家をやらない理由が見当たらない」と思い、29歳で農家を継ぐことを決意した。

就農当時は失敗ばかりでした。」と苦笑いする知輝さん。技術的な面でも苦労したが、一番は「体力的に辛かった。就農前はデスクワークが多かったのだ。」それでも「1年間苦労して育てたものを収穫した時はうれしかった。」と就農当時は振り返る。

からなかった作業も、「一年というサイクルを何回も繰り返すことで、仕事のリズムを掴んでいた。」しかしながら「去年、一昨年と同じように、今まで通りにやるのが大変。」と農業の難しさを語る。

青年部には就農2年目に

地域の先輩の誘いで入り、平成24年度には青年部副部長を務める。青年部で同じ仕事をしている人と知り合っただけで「仲間づくりができた」とは大きかった。」と話す。青年部の活動で印象に残っているのは食育事業とのこと。「子供たちと種をまいて・育て・収穫するという作業の中で、子供たちの楽しそうな顔を見るのがすごくうれしかった。」

妻・美幸さんとは就農す



る前に知り合い3年前に結婚。今では1歳になる娘・結菜ちゃんと遊びのが楽しいと笑顔を見せる。結婚し子供が出来たことでより一層、「家族の為に頑張ろう！」という思いが強くなった、家族思いの一面も見せる。

これからの目標について聞くと、「農業は体が資本の仕事なので、まずは体を第一に考え、細く長く農家を続けることが出来れば。」と話してくれた。



川合1地区

美濃弥緒さん

(28歳)

家族構成

夫 志拓さん (30歳)
 長女 沙来ちゃん (8歳)
 長男 志導くん (4歳)
 義父 廣由さん (57歳)
 義母 久代さん (54歳)

今日は、目元がパッチリでとても可愛い、美濃弥緒さんの紹介です！

- Q** 出身地は？
A 池田町です。
- Q** 池田町の印象は？
A トリカム・ワイン・水道料金が高い！
- Q** 趣味・特技・マイブームは？
A 無趣味でしたが、ずっとドラムに興味があったので、習いに行けたらと思っています。
- Q** 旦那さんとの出逢いは？
A 共通の友人を通じてです。
- Q** 結婚する前は何をしていましたか？
A 地元で仕事をしていました。
- Q** 農家のお嫁さんになる事に不安はありましたか？
A あまり深く考えていませんでした(笑)。
- Q** 農家に嫁いで良かった事は？
A 玉ネギ嫌いを克服しつつある事！のびのびと子育てができる事！
- Q** フレッシュミズに入って活動してみて、どんな所が良いですか？
A 加入した時は農家の仕事を全くしておらず、場違いではと不安でした。色々話し合えるお嫁さん・仲間ができ、研修旅行や集まりでとてもリフレッシュしています。加入する際に声をかけてくれた地区の会員の皆さんに感謝しています！
- Q** これからの抱負を一言！
A 子育ても仕事も楽しんでできればと思います！



理事会の動き

第 9 回

〈平成27年11月25日〉

★ 報告事項 ★

- (1) 組合員の加入・脱退について
- (2) 組合財務の現況について
- (3) 農産物の集荷状況について
- (4) 平成27年産てん菜の概算金支払について
- (5) 平成27年産契約栽培豆類の精算について
- (6) 年末・年始業務について
- (7) 反社会勢力結果報告について
- (8) 販売代金等にかかる営農貯金への振替方法の変更について

★ 議 案 ★

- (1) 組合員資格変動並びに出資金持分減口承認願いについて
- (2) 部長手当の支給について
- (3) 池田町乳用牛及び和牛増頭支援事業の実施と転貸について
- (4) 第7次農業振興計画策定(案)について
- (5) 貸出審査会要領の制定について

★ 協議事項 ★

- (1) 特定組合員の協議経過と年末見込について

今月の1枚



札幌1泊・研修旅行の旅 ～劇団四季などを鑑賞～

今月の1枚は、11月3～4日に行われた、酪農振興会婦人研修で円山動物園を訪れた際の1枚です。

旅行では劇団四季ミュージカル「キャッツ」や、藻岩山ロープウェイに乗り、今年の日本新三大夜景にも選ばれた札幌の夜景などを楽しみました。

11月12日(木)から3日間「池田農業祭」が開催され、初日には「餅まき」が行われました。新入職員である私にとっては初めての農業祭で、餅まきに集まっている人の多さに圧倒されました。

そんな私は農業祭で3日間うどん・そばを作っていました。わからないことだらけで焦っていた私ですが、女性部の方々に助けていただき無事3日間乗り切ることができました。手伝って頂いた皆様ありがとうございました。

これから冷え込みが厳しくなり、道路状態も悪くなっていきますので、くれぐれも体調・事故にはお気を付けください。

(杉山)

編
集
後
記